

## 再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課  
担当課長名：鈴木 克宗

<b>事業名</b> ：一般国道24号 <small>わかやま</small> 和歌山バイパス	<b>事業区分</b> ：一般国道	<b>事業主体</b> ：国土交通省 近畿地方整備局
<b>起終点</b> ：自：和歌山県那賀郡岩出町備前 至：和歌山県和歌山市出島		<b>延長</b> ：10.3km
<b>事業概要</b> ： 国道24号は、京都市から和歌山市に至る延長約160kmの主要な幹線道路である。和歌山バイパスは、交通需要の増大に対応し、国道24号の和歌山市流入部における交通混雑の緩和、沿道地域の活性化等を図ることを目的に計画された延長約10.3kmの道路である。		
S50年度事業化	S54年度都市計画決定(和歌山市域) S58年度都市計画決定(岩出町域)	S54年度用地着手 S55年度工事着手
<b>全体事業費</b> ：約480億円	<b>事業進捗率</b> ：96%	<b>供用済延長</b> ：10.3km
<b>計画交通量</b> ：37,600台/日		
<b>費用対効果分析結果</b>	<b>B/C</b> ： (事業全体) 1.6 (残事業) 6.4	<b>総費用</b> ：(残事業)/(事業全体) 27/880 億円 (事業費：16/831 億円) (維持管理費：11/49 億円)
	<b>総便益</b> ：(残事業)/(事業全体) 173/1,371 億円 (走行時間短縮便益：166/1,335 億円) (走行費用減少便益：6/31 億円) (交通事故減少便益：1/5 億円)	<b>基準年</b> ：平成16年
<b>感度分析の結果</b> ：残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=6.8(交通量+10%) B/C=6.0(交通量-10%) 事業費変動：B/C=6.0(事業費+10%) B/C=6.7(事業費-10%)		
<b>事業の効果等</b> ： ・円滑なモビリティの確保(現道における年間渋滞損失時間及び旅行速度の改善が期待される) ・安全で安心できるくらしの確保(三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる) 他10項目に該当		
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> ： 和歌山バイパスは、交通混雑の緩和、沿道地域の活性化等に重要な役割を果たすことが期待されており、和歌山県をはじめとする和歌山バイパス促進期同盟会等により、早期完成供用を期待する強い要望を受けている。		
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> ： 紀北地域の東西方向の主要幹線道路は国道24号のみであり、人口及び自動車保有数の大幅な増加や、地域開発、産業活動などが活発化し、市内流入部の暫定2車線区間で渋滞が深刻化している。		
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> ： 平成11年までに紀の川渡河部の暫定2車区間を除き、4車線にて完成供用を図っており、残る紀の川渡河部についても早期完成供用に向け、事業推進に努めている。		
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> ： 紀の川渡河部の4車化において、兵庫県南部地震以降、道路橋の耐震に関する指針が見直されたことを受け、平成11年度～平成14年度に下部の耐震補強工事の施工を行い、平成15年度から上部工事に着手しており、平成19年度に全線完成供用予定である。		
<b>施設の構造や工法の変更等</b> ： 紀州大橋上部工施工にあたっては、合理的な設計基準の採用により、コスト縮減に努めている。		
<b>対応方針</b> ：事業継続		
<b>対応方針決定の理由</b> ：以上の状況を勘案し、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
<b>事業概要図</b> ：  第3次渋滞対策プログラム (備前、船戸、出島、インター南口、花山交差点)		
		<b>凡 例</b>
		■ 供 用 中
		▨ 再評価箇所
		▩ うち供用中

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。